



埼玉乳がんケア・サポートグループ副理事長
二宮病院 院長

二宮 淳

本日はご多忙の折、第7回埼玉乳がんシンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございます。

埼玉乳がんシンポジウムですが、平成22（2010）年2月20日に第1回目が開催され、その後も黒住昌史先生（現：亀田京橋クリニック）と各回の当番世話人の先生が中心となり、隔年で開催してまいりました。「埼玉乳がん臨床研究グループ」の主催で行ってきましたが、令和元年（2018）年7月よりグループ名が「埼玉乳がんケア・サポートグループ」に変更となり、また理事長に齊藤毅先生（さいたま赤十字病院）が新たに就任され、2020年は第6回の開催を予定いたしました。残念ながら、その年はコロナウイルス感染流行のため中止となり、翌2021年web形式で開催となりました。その後2年が経過し、学会・講演会等も現地開催が再開されましたが、コロナの流行は第7～8波へと未だ収束したとは言えず、第7回の開催形式には大変悩みました。確実な開催ということで、最終的に今回もweb形式といたしました。決定の遅れもあり、演者・司会の先生方をはじめ、ご準備いただきました各製薬会社様、運営いただきましたサンプラネット様には大変ご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りしてお詫び、そして開催できましたことを感謝申し上げます。

第1回から参加してまいりましたが、乳がん領域も含め、近年のがん診断・治療の進歩は目覚ましいものがあり、遺伝情報も含めた領域横断的な展開となってまいりました。

特に乳癌術後補助療法においては非常に複雑になり、治療格差が生じるのではないかと懸念も持たれます。各医療機関は診断・治療において出来ること・出来ないことを整理し、近隣の医療機関と連携して効率化を図る必要があります。

上述いたしました通り、医療関係者は常に勉強が必要ですが、「埼玉乳がんケア・サポートグループ」は人材育成・教育を活動の一つとしております。講演会等も積極的に行っておりますが、日常診療の多忙さから参加ができない方も多数おられます。埼玉乳がんシンポジウムのように、多くの講演を一度に聴講できる機会は大変貴重で、学会でも中々難しいと思われます。

本日の講演は明日からの診療にすぐ役立つものばかりで、参加いただきました方々にとって、実りあるものになることを願ってやみません。



事務局（二宮病院）

二宮 淳

前身であります埼玉乳がん臨床研究グループ（Saitama Breast Cancer Clinical Study Group: SBCCSG）は、平成 11 年に活動を開始し、平成 18 年に特定非営利活動法人として法人格を取得し、県内 38 施設 69 名の医師が参加するまでになりました。しかし啓蒙活動や人材育成が充実する一方で、臨床研究を取りまく状況は年々厳しさを増し、グループの活動内容を見直さないと、製薬会社様からの協力も難しい状況となりました。そのため、令和元年の理事会・総会における議論を経て、グループ名を「NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ」へ変更し、活動内容も①一般市民への啓発活動、②人材の育成、に絞ることとなりました。ただ前身からの理念「埼玉県内から乳がんで苦しむ人をなくす」に変わりはなく、「乳がん市民フォーラム」「市民公開講座」など一般の方への啓発活動、「症例検討会」や「多職種合同会議」を通じて参加医師の教育や最新情報の共有、治療方針の均てん化は、以前にもまして積極的に取り組みたいと考えております。

具体的な運営内容は、理事長の齊藤毅先生を中心に 5 名の副理事長（小島誠人先生、櫻井孝志先生、松本広志先生、山田博文先生、永井成勲先生）、事務局長（二宮）による運営会議で決定し、本会の活性化に努めております。

以下、役員・特別会員名簿です。

NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ役員・特別会員名簿（令和5年1月現在）

役 名	氏 名	所 属
理事長	齊藤 毅	さいたま赤十字病院乳腺科部長
副理事長	小島 誠人	獨協医科大学埼玉医療センター乳腺科准教授
副理事長	櫻井 孝志	さいたま赤十字病院乳腺科副部長
副理事長	松本 広志	埼玉県立がんセンター乳腺外科科長兼部長
副理事長	山田 博文	川越プレストクリニック院長
副理事	永井 成勲	埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科副部長
副理事長、事務局	二宮 淳	移山会二宮病院院長
理事	井上 賢一	埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科科長兼部長
理事	甲斐 敏弘	新都心レディースクリニック院長
理事	大久保雄彦	戸田中央総合病院乳腺外科部長
理事	蓬原 一茂	自治医科大学附属さいたま医療センター助教
理事	中野 聡子	川口市立医療センター乳腺外科部長
理事	山下 純男	こくさいじクリニック院長
理事	黒田 徹	赤心堂病院外科診療部長、乳腺科科長
理事	三宅 洋	春日部市立医療センター病院事業管理者
理事	秦 怜志	豊仁会三井病院院長
理事	佐伯 俊昭	埼玉医科大学国際医療センター病院長
理事	大崎 昭彦	埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科教授
理事	守屋 智之	すぎうら乳腺消化器クリニック院長
理事	君塚 圭	春日部市立医療センター乳腺外科部長
理事	小西寿一郎	国立病院機構埼玉病院 乳腺センター部長
理事	児玉ひとみ	埼玉石心会病院副院長
理事	三浦 弘善	越谷市立病院がん治療センター長
理事	北条 隆	埼玉医科大学総合医療センタープレストケア科教授
監事	藤井 博文	自治医科大学臨床腫瘍科教授
監事	武井 寛幸	日本医科大学乳腺科教授
名誉理事長	田部井敏夫	上尾中央総合病院、顕正会 蓮田病院
名誉理事長	黒住 昌史	亀田京橋クリニック乳腺病理部長 さいたま赤十字病院病理診断科顧問
顧問	末益 公人	アルシェクリニック、たけうちクリニック

参加者・発表者／司会の方々へのご案内

- 1、本会は WEB 開催となります。(現地での開催はいたしませんのでご注意ください)
- 2、参加費は無料です。
※当日 WEB ライブ配信を行いますので視聴ご希望の方は下記 QR コードからお申し込みください。
お申し込みの方には確認させていただき視聴用 URL をお送りいたします。
URL 送信に時間がかかる可能性がございますので事前にお申し込みください。
- 3、発表者、司会の方へ
発表者の方、司会の方もリモートにてオンライン参加いただきます。
リモートでのご参加は Zoom を利用いたします。
参加方法の詳細につきましては運営事務局からセミナー企業ご担当者様にご案内いたします。

問い合わせ先

事務局

二宮病院
二宮 淳
〒340-0056 埼玉県草加市新栄二丁目 2-22-23
TEL：048-941-2223 FAX：048-944-1514
E-mail：jninomiya@grape.plala.or.jp

運営事務局

株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部
担当：高橋、原
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-10 住友成泉小石川ビル 6F
TEL：03-5940-2614 FAX：03-3942-6396
E-mail：sbcs7@sunpla-mcv.co



<https://ws.formzu.net/sfgen/S73175295/>

WEB 視聴
申し込み QR コード

プログラム

12:00~12:30	Opening Session 「最近の乳癌（術後）補助療法について」 二宮 淳（二宮病院 院長）
12:30~13:20	セミナー1 理事長講演 「転禍爲福（禍転じて福と為す）」 齋藤 毅（さいたま赤十字病院 乳腺科部長）
13:20~13:30	休憩
13:30~14:20	セミナー2 司会：櫻井 孝志（さいたま赤十字病院 乳腺科副部長） 「HBOC診療における今日のコンパニオン診断」 明石 定子（東京女子医科大学 外科学講座 乳腺外科学分野教授） （共催：アストラゼネカ株式会社）
14:20~14:30	休憩
14:30~15:20	セミナー3 司会：二宮 淳（二宮病院 院長） 「HER2陽性乳がんの周術期治療について」 内藤 陽一（国立がん研究センター東病院 総合内科長／先端医療科／腫瘍内科） （共催：中外製薬株式会社）
15:20~15:30	休憩
15:30~16:20	セミナー4 司会：大崎 昭彦（埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科教授） 「ER+/HER2-早期乳癌の術後療法に関する話題 ーページニオ併用の意義ー」 三好 康雄（兵庫医科大学 乳腺・内分泌外科教授） （共催：日本イーライリリー株式会社）
16:20~16:30	休憩
16:30~17:20	セミナー5 司会：井上 賢一（埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科 科長兼診療部長） 「HER2陽性手術不能または再発乳癌の治療戦略における新展開」 中山 貴寛（大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 主任部長） （共催：第一三共株式会社）
17:20~17:30	休憩
17:30~18:20	セミナー6 司会：齋藤 毅（さいたま赤十字病院 乳腺科部長） 「HR陽性HER2陰性進行再発乳癌治療の展望2023」 増田 慎三（名古屋大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学教授） （共催：ファイザー株式会社）
18:20~18:25	閉会の辞 埼玉乳がんケア・サポートグループ理事長 齋藤 毅

Opening Session

最近の乳癌（術後）補助療法について

二宮病院 院長
二宮 淳

冒頭の挨拶でも述べさせていただきましたが、第7回埼玉乳がんシンポジウムの開催にあたり、関係の皆様、ご司会・ご講演いただきます先生方には、準備不足の中、多大なご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

Opening Session ですが、最近の複雑化する乳癌（術後）補助療法についてお話したいと思います。主に再発で使用されていた薬剤の術後補助療法における追加承認の話となりますが、具体的な薬剤として、2020年8月のT-DM1、2021年12月Abemaciclib、2022年8月Orapalib、2022年9月Pembrolizumab、2022年11月S-1と挙げられ、最近2年の間に5つの薬剤、特に昨年8月以降3つの薬剤が追加承認されております。2022年8月のBRCA1/2遺伝子検査の適応拡大も伴い、手術・術前治療・免疫染色（ホルモンレセプター、HER2）の解釈も含めて非常に複雑な治療の組み立てが必要になっており、一度整理する必要があるかと思えます。

この後、各セミナーをご聴講いただくことで、より詳しい内容を知ることができますが、まずはこのセッションで俯瞰していただき、問題点を見つけていただければありがたいです。

セミナー1. 理事長講演



転禍爲福（禍転じて福と為す）

さいたま赤十字病院 乳腺科部長

齋藤 毅

略 歴

1982年 3 月	自治医科大学卒
1982年 4 月	埼玉県衛生部
1991年 6 月	さいたま赤十字病院
2022年 7 月	さいたま赤十字病院 乳腺科

抄 録

NPO 法人・埼玉乳がんケア・サポートグループは県内の乳がん診療にたずさわっている医療従事者のグループです。

さて法律上の法人とは、権利義務の主体となることができる資格（権利能力）を認められたものです。その主旨は実社会の中で、法律上や経済活動上での便宜を図ることです。

メンバーの皆さんと長年かけて育んできたこの法人は、わたくしにとっても、皆様にとっても大切な、いわば我が子のような存在なのではないでしょうか？

皆様とともに一体感を持ちつつ活動するうちに、時代や環境の変化に即応し新たな展開への期待が湧き起こるようになりました。

昨今続々と登場する新薬、Molecular 病理診断の導入、スタートをきったゲノム医療、加えて画像診断の進歩、手術用デバイスの開発、連携レベルにおけるデジタル化など、医学の進歩に伴い乳がん診療は様々な分野で変化をしております。私どもの目指すところは、高度化・複雑化した質の高い医療を日頃の臨床の現場に遅滞なく、安全にかつ円滑にお届けすることなのですが、至らぬところが多々あります。

問題の一つに、昨今乳がん患者が増える中、乳腺疾患を扱う医師の養成が不十分な現状が挙げられます。近未来を先見・洞察し対応を急ぎたいところです。NPO 法人の定款の目的の中の「医師・医療関係者の教育並びに学術活動」の中には当然に後進の養成が含まれておると考えております。小さな勉強会から始まったグループ活動も NPO 法人化し 17 年近くになります。皆で育ててきたこの大切な愛おしい組織が、立ち向かう医療環境の変化という試練を「勇気ある逞しい人」として乗り越えさらなる発展をしたいのです。

セミナー2.

共催：アストラゼネカ株式会社

セミナー2



司 会

さいたま赤十字病院 乳腺科副部長

櫻井 孝志

略 歴

1986年 3 月	筑波大学 医学専門学群 卒業
1986年 5 月	慶應義塾大学病院 外科
1987年 5 月	水戸赤十字病院 外科
1988年 5 月	国立療養所神奈川病院 外科
1989年 5 月	慶應義塾大学病院 一般消化器外科
1992年 5 月	川崎市立井田病院 外科
2006年 5 月	埼玉社会保険病院 外科
2014年 4 月	埼玉メディカルセンター 外科 に名称変更
2022年 4 月	さいたま赤十字病院 乳腺科

資格

日本外科学会 専門医, 指導医

日本乳癌学会 専門医, 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医, 指導医 など

所属学会

日本外科学会, 日本乳癌学会, 日本乳癌検診学会, 日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本消化器外科学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本内視鏡外科学会, 日本内分泌外科学会, 日本臨床外科学会, 日本オンコプラスティックサージャリー学会 など

司会の言葉

多様な社会情勢の変化の中、本年このように埼玉乳がんケア・サポートグループとしてシンポジウムを開催できましたこと深く感謝いたします。

第7回埼玉乳がんシンポジウムのセッション「HBOC 診療における今日のコンパニオン診断」にあたり、御講演を東京女子医科大学 外科学講座 乳腺外科学分野教授であります明石定子先生にお願いさせていただきました。

先生が国立がんセンター在籍時代からご活躍をお聞きしておりましたが、手術のみならず、ホルモン療法・化学療法・抗体薬物療法などへの深い造詣、また *BRCA* をはじめとした遺伝性疾患に対する認知の向上、そして何よりも女性乳腺外科医が活躍しやすい環境作りなど、昭和医大そして東京女子医大へと、さらなるご活躍の環境を作られていらっしゃるものと存じます。

近年周術期薬物療法においては、CDK4/6 阻害剤や経口抗癌剤や ICI、そして PARP 阻害剤など多彩な薬物が認可されており、ともすれば全部盛りになってしまいがちですが、どのような症例にどのように適応させていくのか、escalation のみでなく de-escalation の観点も忘れずに、本当に必要な患者さんのみに適切に使用していくことが非常に重要となっております。

皆様ともども治療の大きな変化の波にうまく乗れますよう、しっかり御講演を拝聴させていただきます。



HBOC診療における 今日のコンパニオン診断

東京女子医科大学 外科学講座 乳腺外科学分野教授
明石 定子

略 歴

履歴 平成2年3月 東京大学医学部医学科卒業
平成2年6月 東京大学医学部付属病院第3外科入局
平成4年6月 国立がんセンター中央病院 外科レジデント
平成7年6月 国立がんセンター中央病院 乳腺外科がん専門修練医
平成8年4月 国立がん研究センター中央病院勤務 乳腺科医員
平成20年10月 同16A病棟医長
平成23年10月 東京大学医学部非常勤講師（兼任）
令和元年7月 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門 准教授
令和4年9月 同 教授
令和4年9月 東京女子医科大学 外科学講座 乳腺外科学分野 教授・基幹分野長

医学博士 平成11年4月28日取得（東京大学医学系大学院）

賞 1999年 第5回日本乳癌学会研究奨励賞
2019年 国際ソロプチミスト日本財団 千嘉代子賞
英文論文 130編、和文論文126編

主な役職
厚生労働省 社会保障審議会統計分科会「疾病、傷害及び死因分類専門委員会」専門委員
文部科学省 大学設置大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員会専門委員、日本乳癌学会 理事、評議員、働き方検討委員会委員長
チーム医療推進委員会委員長、財務副委員長、将来検討委員会委員、日本乳腺甲状腺超音波医学会 第40回学術集会会長 理事、事務局長
学術委員会委員、FUSION02研究部会長、編集委員会委員、倫理委員会委員、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会 庶務担当理事、評議員
広報・企画調査委員会副委員長、日本外科学会、指導医、ダイバーシティ推進委員、保険診療委員、外科医労働環境改善委員
日本臨床外科学会 評議員、編集委員、国内手術研修委員、公益財団法人 がん集学的治療研究財団 臨床研究開発・推進委員会委員
日本癌治療学会 ガイドライン作成・改訂委員会委員
JOHBOC COI委員
日本超音波医学会 次世代超音波画像データベース構築委員会名簿委員、国際交流委員会委員
日本人間ドック学会 女性の人間ドック検診の在り方に関する委員会委員
乳癌懇話会世話人・事務局（第36回代表世話人）
日本女性外科医会 世話人
JMA Journal 編集委員（乳腺分野）
WFUMB2025 Local Organizing Committee
特定非営利活動法人 日本女性技術者科学者ネットワーク 監事
AMED 革新的がん医療実用化研究事業 評価委員

テレビ出演
NHK Eテレ きょうの健康 2022/10/10、10/11、10/13
テレビ朝日 ABEMAニュース 人間ドックにおける触診の意義 2021/10/12
テレビ東京 がん最新治療に挑む名医たち 2020/12/20
NHK プロフェッショナル仕事の流儀 2018/12/3
日本テレビ 世界一受けたい授業（アンコール特集） 2018/11/3
テレビ東京 ワールドビジネスサテライト GGT、乳房PET 2017/11/27
日本テレビ 世界一受けたい授業「アナタはどれだけ知っている？家族を守るための乳がん検定」 2017/2/18
BS朝日 命を救う！スコ腕ドクター〜乳がん、大腸がん、脳卒中〜 2017/2/13
テレビ東京 ワールドビジネスサテライト SAVI 2016/10/26
TBS 健康カプセル元気の種、2016/10/2 乳癌になった時の家族のサポート
日本テレビ スッキリ 2016/07/11 乳癌検診について
文化放送（ラジオ）「吉田照美、飛べ！サルバドール」協会けんぽ 健康サポート 乳癌について 2016/07/06、14、20
NHKおはよう日本 2015/11/9 3DMMGについて
テレビ朝日 林修の今でしょ講座 乳癌検診について 2015/10/27
TBS 朝チャン乳癌について（北斗さん） 2015/09/24、26
日本テレビ ニュースゼロ（乳房再建） 2013/10/2、
日本テレビ ニュースゼロ、エブリ、シュウイチ（アンジェリーナ・ジョリー） 2013/5/13
テレビ東京 感謝の手紙 2013/3
テレビ東京 話題の医学
テレビ東京 医食同源 “女医が語る乳腺の病気”

研究費
●AMED臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業（H30～R2）
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究（分担）
●AMED H30年度 医工連携事業化推進事業 超音波CTを用いた乳がん用画像診断装置の開発・事業化（分担）

抄 録

1994 年に三木義男先生により単離された *BRCA1* 遺伝子は、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の原因遺伝子であるだけでなく、PARP 阻害薬の標的としてオラパリブに対するコンパニオン診断としての役割も担うようになった。乳癌領域では遺伝性乳がんを疑う病態のみならず、「がん化学療法歴のある *BRCA* 遺伝子変異陽性かつ HER2 陰性の手術不能または再発乳癌」、「*BRCA* 遺伝子変異陽性 HER2 陰性で再発高リスクの乳癌」が *BRCA* の検査対象である。OlympiA 試験結果はじめ、実際の症例を供覧しつつ、HBOC 診療の最新情報を紹介する。

セミナー3.

共催：中外製薬株式会社

セミナー3



司 会

二宮病院 院長

二宮 淳

略 歴

平成 5 年	群馬大学医学部卒業
同年	群馬大学第二外科入局
平成14～19年	埼玉県立がんセンター乳腺外科
現在	二宮病院
	獨協医科大学埼玉医療センター乳腺科（非常勤）

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

司会の言葉

このセミナーでは「HER2 陽性乳がんに対する周術期治療」について国立がん研究センター東病院・腫瘍内科・総合内科科長の内藤陽一先生にご講演いただきます。

振り返ってみれば、乳癌における抗 HER2 療法は 20 年以上が経っており、まずはトラスツズマブが 2001 年 4 月に転移・再発乳癌に適応承認されました。術後補助療法に限ると、2008 年 2 月にトラスツズマブが追加承認され、その後 10 年を経ますが、2018 年 10 月にペルツズマブ、2020 年 8 月に T-DM1 が加わり、より強力な治療体系が出来上がってきました。その間には様々な臨床試験が行われ、HER2 陽性乳癌は薬物感受性が高く、抗 HER2 併用の術前化学療法で病理学的寛解（pCR）が得られた場合は予後良好であることから、術前化学療法へのシフトと高い pCR 率が求められるようになりました。一方で dose-escalation, de-escalation の考えや、pCR が得られなかった（non-pCR）症例への問題は、術前治療の適応を考える大きな契機となりました。そのような中、KATHERINE 試験の結果は non-pCR 症例への道を開き、術前治療へのシフトを加速させたのではないかと思います。

もちろん、過剰治療は避けるべきで、アンスラサイクリンの使用も含め、HER2 陽性乳癌の周術期治療もまだ議論すべき点は多いと考えます。内藤先生からご解説いただき、皆様と一緒に考える場が出来ましたこと大変嬉しく、司会の言葉とさせていただきます。



HER2陽性乳がんの周術期治療について

国立がん研究センター東病院 総合内科／先端医療科／腫瘍内科

内藤 陽一

略 歴

2000年 3 月	群馬大学医学部卒業
2000年 6 月	群馬大学医学部附属病院第一内科
2001年 6 月	伊勢崎市民病院 内科
2002年 6 月	総合太田病院 内科
2003年 6 月	独立行政法人国立病院機構 西群馬病院 内科
2005年 4 月	国立がんセンター東病院 呼吸器科
2010年 4 月	虎の門病院 臨床腫瘍科
2011年 6 月	国立がん研究センター東病院 乳腺科・血液化学療法科
2012年 9 月	国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科
2015年 4 月	国立がん研究センター東病院 先端医療科／乳腺・腫瘍内科
2020年 1 月	国立がん研究センター東病院 先端医療科／乳腺・腫瘍内科／総合内科
2020年 4 月	国立がん研究センター東病院 先端医療科／乳腺・腫瘍内科／総合内科医長
2021年 1 月	国立がん研究センター東病院 先端医療科／腫瘍内科／総合内科医長
2022年 4 月	国立がん研究センター東病院 先端医療科／腫瘍内科／総合内科科長

所属学会等

日本臨床腫瘍学会

日本癌治療学会

日本癌学会

日本内科学会

日本緩和医療学会

日本乳癌学会

日本サルコーマ治療研究学会

日本サイコオンコロジー学会

American Society of Clinical Oncology (ASCO)

European Society of Medical Oncology (ESMO)

抄 録

乳がんは女性で罹患率が最も多いがんである。乳がんの治療成績は経時的に改善してきており、とくに HER2 陽性乳がんの治療は、新規抗 HER2 薬の開発と臨床導入により飛躍的に改善してきた。乳癌診療ガイドライン 2022 年版が発刊され、その中において、周術期に行う薬物療法の目的は、潜在的な「微小転移」の根絶・制御により、治癒およびより長い生存期間を目指すことであること、抗 HER2 療法は、化学療法と併用して行うことが標準であることが記載されている。また、手術可能な HER2 陽性浸潤性乳癌に術前化学療法を施行する場合は、抗 HER2 薬であるトラスツズマブを併用し、化学療法にトラスツズマブを併用することで高い病理学的完全奏効（pCR）率が得られる。ガイドラインにおいて、トラスツズマブにペルツズマブを加えることが強く推奨されている。術前薬物療法により pCR が得られなかった場合は、pCR となった場合と比べ再発のリスクが高く、このような場合についてはトラスツズマブ エムタンシン 14 サイクルの投与が強く推奨されている。この治療により、主要評価項目である浸潤癌の無病生存期間は、トラスツズマブ単独と比べハザード比（HR）0.50（95%CI 0.39-0.64）と統計学的に有意に改善されることが報告されている。本稿では、上記治療を含め HER2 陽性乳がんの周術期治療について概説する。

セミナー4.

共催：日本イーライリリー株式会社

セミナー4



司 会

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科教授

大崎 昭彦

略 歴

昭和61年 3 月	広島大学医学部医学科卒業
平成 5 年 3 月	広島大学大学院医学系研究科修了 博士（医学）取得
平成 5 年 4 月	国立病院九州がんセンター 外科医師
平成 9 年 6 月	広島大学原爆放射能医学研究所 助手
平成12年 6 月	米国留学（文部省在外研究員） スローン・ケタリンがんセンター（ニューヨーク） ダナ・ファーマーがん研究所（ボストン）
平成14年 4 月	広島大学原爆放射線医科学研究所 助手 （研究所の改組に伴い名称変更）
平成14年 7 月	広島大学医学部附属病院 講師
平成15年 5 月	広島大学原爆放射線医科学研究所 講師
平成18年 6 月	埼玉医科大学病院乳腺腫瘍科 助教授
平成19年 4 月	埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 准教授
平成19年 9 月	埼玉医科大学病院乳腺腫瘍科 診療科長／准教授
平成23年 8 月	埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 教授
平成24年 4 月	埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 診療部長／教授 現在に至る

資 格

日本外科学会 専門医、指導医

日本乳癌学会 乳腺専門医 指導医

所属学会・その他

日本乳癌学会 評議員、医療安全委員会委員

日本乳癌検診学会 評議員、監事

日本がんサポーターズケア学会 評議員 理事

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 評議員

NPO法人埼玉乳がんケア・サポートグループ 理事

米国臨床腫瘍学会（ASCO）正会員

司会の言葉

乳がんにおける新薬の開発は進行・再発乳がんに始まり、効果がある薬剤はフロントラインに移っていくという流れは昔も今も変わっておりません。乳がんのサブタイプにより使われる薬剤は異なりますが、ER 陽性 HER2 陰性乳がんにおいては CDK4/6 阻害薬、PARP 阻害薬、経口フッ化ピリミジンが注目される薬剤であるといえます。乳がんの薬物療法全体を見渡しても ER 陽性 HER2 陰性乳がんの術後補助療法が今、最もホットな領域ではないでしょうか。補助療法の歴史を紐解いてみると 2007 年の St. Gallen では比較的予後の良いとされる ER 陽性 HER2 陰性乳がんに対する化学療法の選択が議論されていました。その議論の中心はあくまでも化学療法で、化学療法を使う患者を選別することが当時の興味であったように思います。今、CDK4/6 阻害薬、PARP 阻害薬、経口フッ化ピリミジンの補助療法のエビデンスが出そろったなか、我々の興味はこうした薬剤をいかに有効に使うかというところにシフトしてしてきたと感じています。本日は、三好先生に ER 陽性 HER2 陰性乳がんの周術期治療の key drug の data review と先生ご自身の治療戦略の組み立て方について、また患者さんへの説明のポイントなどについてもお話しいただけると伺っております。皆様の日常診療の一助となることを期待しております。



ER+/HER2-早期乳癌の 術後療法に関する話題 ーページニオ併用の意義ー

兵庫医科大学 乳腺・内分泌外科教授

三好 康雄

略 歴

1984年	大阪大学医学部医学科卒業
1984～1988年	大阪大学第二外科、大阪府立成人病センター、箕面市立病院で外科の研修
1988年	大阪大学大学院医学研究科博士課程（第二外科）入学
1990～1992年	癌研生化学教室（中村祐輔部長）に国内留学
1993～1995年	英国王立癌研究基金（Imperial Cancer Research Fund）留学
1996～1998年	大阪大学医学部 臨床遺伝学教室 助手
1999～2007年	大阪大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科 助教
2007年11月	兵庫医科大学外科学講座 准教授（乳腺・内分泌外科 部長）
2009年12月～	兵庫医科大学 乳腺・内分泌外科 教授

研究テーマ

- 1) 乳癌のリスクファクターの同定
- 2) 乳癌のホルモン依存性の診断と内分泌療法感受性予測
- 3) 乳癌の化学療法感受性予測

平成12年度 厚生労働省がん研究助成金

乳がん・大腸がんの家族内集積性に関する研究 主任研究者

日本乳癌学会第10回班研究

化学療法感受性予測因子の開発に関する研究 班長

第30回日本乳癌学会学術総会会長（2022年）

役 職

ホルモンと癌研究会 理事

抄 録

CDK4/6 阻害剤である abemaciclib は、エストロゲン受容体 (ER) 陽性/HER2 陰性の転移・再発乳癌のキードラッグであると同時に、ER 陽性/HER2 陰性の高リスク乳癌における術後療法として保険適用を取得している。MonarchE 試験では、リンパ節転移 4 個以上、1-3 個で腫瘍径 5cm 以上あるいは腫瘍グレード 3 (コホート 1) と Ki67 $\geq$ 20% (コホート 2) の 5637 例を対象に、内分泌療法単剤群と abemaciclib を 2 年間併用する群が 1:1 に割り付けられた。フォローアップの中央値 42 か月のデータにおいて、無浸潤疾患生存期間 (IDFS) はハザード比 (HR) 0.664 (95% 信頼区間 (CI) 0.578-0.762, $p < 0.0001$) であり、abemaciclib 群で有意に改善していた。一方、全生存期間においては現時点で有意差が認められていない (HR 0.929, 95% CI 0.748-1.153, $p = 0.50$) (Lancet Oncol 2023; 24: 77-90)。ランダム化解析によると、IDFS は abemaciclib 投与中の 0-1 年で HR 0.782 (95% CI 0.583-1.018)、1-2 年で HR 0.674 (95% CI 0.521-0.858)、abemaciclib 終了後の 2-3 年で HR 0.618 (95% CI 0.477-0.788)、3 年以降で HR 0.602 (95% CI 0.428-0.803) と報告されている (SABCS 2022)。このように、術後療法においても abemaciclib の有効性が示されている。興味ある点として、abemaciclib 終了後に HR がより開く点である。本講演では abemaciclib を併用する意義と有効性のメカニズムを考察したい。

セミナー5.

共催：第一三共株式会社

セミナー5



司 会

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター

井上 賢一

略 歴

1984年	埼玉医科大学 医学部 卒業
1985～1987年	東京大学医学部 研究生
1988年	埼玉医科大学 大学院 卒業
1988年	埼玉県立がんセンター 内分泌科
2008年	埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科
2021年	地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科

所属学会

日本乳癌学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本内分泌学会 ASCO正会員

資 格

乳腺専門医（薬物療法）

司会の言葉

このセッションでは、大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 中山貴寛先生に、日進月歩の HER2 陽性進行乳癌の治療戦略について御発表いただきます。

抗 HER2 薬を使用することができるようになり、HER2 陽性乳がんにおける治療は、目覚ましく進歩しました。トラスツズマブを、初めて使用した患者さんについて今でも鮮明に記憶しております。トラスツズマブ単剤／抗癌化学療法薬との併用→低分子 tyrosine kinase inhibitor →トラスツズマブ エムタンシン（T-DM1）→トラスツズマブ＋ペルツズマブ＋タキサン→トラスツズマブ デルクステカン（T-DXd）が現在使用可能になりました。それぞれの薬物療法で、有効性が確認されてきました。早期乳がんへも応用されることで、HER2 陽性乳がんの予後が改善されてきました。現在もその進歩はとどまらず、抗体の改変（Fc や 2 価化）、新しい ADC（antibody-drug conjugate）やワクチンが開発途上にあります。このような薬剤の進歩により、NPO 法人埼玉乳がんケア・サポートグループ（SBCCSG）の基本理念である「乳がんで苦しむ人をなくしたい」それが私たちの願いです！の達成を祈念するばかりです。



HER2陽性手術不能または再発乳癌の 治療戦略における新展開

大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 主任部長

中山 貴寛

略 歴

学 歴

昭和58年3月 大阪府立大手前高校卒業
昭和59年4月 奈良県立医科大学入学
平成2年3月 奈良県立医科大学卒業
平成13年3月 大阪大学大学院博士課程卒業

職 歴

平成2年5月1日 大阪大学医学部附属病院にて研修
平成2年7月1日 国立大阪病院外科勤務
平成5年6月1日 大阪通信病院外科勤務
平成6年4月1日 大阪大学大学院博士課程（医学研究科）入学
平成10年4月1日～平成12年3月31日 米国留学
John Wayne Cancer Institute (Santa Monica, California, USA)
平成12年4月1日 大阪大学大学院博士課程（医学研究科）
（平成6年4月1日より継続）
平成12年6月1日 大阪厚生年金病院 外科医長
平成13年3月10日 大阪大学大学院博士課程（医学研究科）卒業
平成15年5月1日 市立堺病院 外科医長
平成16年4月1日 大阪大学腫瘍外科臨床助教授（兼務）
平成17年4月1日 市立堺病院 外科副理事
平成17年4月25日～平成17年6月17日 米国留学
MD Anderson Cancer Center (Houston, Texas, USA)
平成18年4月1日 市立堺病院 外科・乳腺担当部長
平成20年4月1日 大阪大学医学部医学系研究科
外科学講座 乳腺・内分泌外科分野 助教
平成22年10月1日 大阪大学医学部医学系研究科
外科学講座 乳腺・内分泌外科分野 学部講師
平成24年4月1日 大阪府立成人病センター
乳腺・内分泌外科 副部長
大阪大学医学部臨床教授（兼務）
平成28年4月1日 大阪府立成人病センター
乳腺・内分泌外科 主任部長
平成29年3月25日 大阪国際がんセンター
乳腺・内分泌外科 主任部長
現在に至る
令和2年4月1日 大阪国際がんセンター
乳腺センター長（兼務）

免 許：平成2年5月28日 医師免許証（第331853号）

賞 罰：平成16年3月16日 平成15年がん研究奨励助成金

所属学会：日本外科学会、日本乳癌学会、日本癌治療学会

資格等：医学博士、日本外科学会指導医、専門医、日本乳癌学会専門医、評議委員

各種委員会：日本乳癌学会 学術教育部門 専門医制度委員会／認定委員会 委員

日本乳癌学会 学術教育部門 教育・研修委員会 委員、日本乳癌学会 学術教育部門 地方創生委員会 委員

日本乳癌学会 臨床統括部門 規約委員会 委員、JBCRG利益相反委員会 委員長

KBCSG-TR研究会 代表世話人

抄 録

パラダイムシフトとは、「その時代に当然と考えられていた物の見方や考え方が劇的に変化すること」とされている。T-DXd は、まさに乳がん治療におけるパラダイムシフトを起こしている。

ADC（抗体薬物複合体）は、いろんな疾患において、次世代治療の強力な武器として注目を浴びている。乳がんにおいても然りであり、種々のサブタイプを対象として、ADC が開発されている。T-DXd は HER2 陽性乳がんを対象として、T-DM1 に続いて開発された 2 番目の ADC である。T-DXd は①1つの抗体に8つのペイロードを擁し、②腫瘍内で選択的に分解されるリンカーを持つ、そして③細胞内に取り込まれたペイロードが周囲の細胞にまで影響を及ぼすバイスタンダー効果を有するといった、特徴的な薬剤設計がなされている。これらの特徴が T-DXd の主たる要因となっていると考えられる。

T-DXd が登場するまでは、HER2 陽性転移再発乳がん治療の 3rd ラインにはラパチニブ + カペシタビンやトラスツズマブ + 化学療法が主体であった。そして、T-DM1 後の治療に関して我々が実施した observational study（KBCSG-TR 1917 試験）では、T-DM1 後の治療の PFS の中央値は 5.7ヶ月であった。一方、DESTINEY Breast 01（DB01）試験では、T-DM1 後の治療として用いられた T-DXd の PFS の中央値は 19.4ヶ月という結果であった。さらに、昨年の SABCS2022 において T-DM1 後の治療として、T-DM1 を主治医選択治療と比較した DB02 試験の結果が報告され、DB01 試験と同様に T-DXd の有用性が示された（mPFS=17.8ヶ月、HR=0.3589、 $p<0.0000001$ ）、さらに main secondary endpoint である OS においても中央値 39.2ヶ月と有意差をもって、生存を延長する結果であった。

昨年 11 月 24 日に T-DXd の治療対象として「化学療法歴のある HER2 陽性の手術不能又は再発乳癌」という変更承認が取得された。今回のシンポジウムでは、変更承認取得に至る過程に用いられた DB03 試験の結果について、①有効性、②安全性、さらに③脳転移を有するサブグループにおける治療成績などを提示し、T-DXd の適切と考えられる治療ラインについて検討したい。

セミナー6.

共催：ファイザー株式会社

セミナー6



司 会

さいたま赤十字病院 乳腺科部長

齋藤 毅

略 歴

1982年 3 月	自治医科大学卒
1982年 4 月	埼玉県衛生部
1991年 6 月	さいたま赤十字病院
2022年 7 月	さいたま赤十字病院 乳腺科

司会の言葉

ホルモン受容体陽性かつ HER2 陰性の進行再発乳癌に対して CDK4/6 阻害剤が上市してから、はや 5 年が経過いたしました。今では CDK4/6 阻害剤によるファーストラインとしての治療は日常臨床にすっかり浸透してまいりました。

患者が満足する生活と実りある人生を送れるように、個々の患者の全身状態、合併症、年齢、生活環境などの背景因子を意識し薬物選択をしたいと常々考えております。

CDK4/6 阻害剤の選択肢が増えたいま、すぐれた抗腫瘍効果を享受しながら、副作用を最小限にとどめ、QOL の高い生活を末永く維持するためのベスト処方をあらためて熟考したいと思います。また CDK4/6 阻害剤に後続するセカンドライン、サードラインの治療戦略ありかたも前治療の影響を踏まえたものになる可能性があり興味がつきないところです。

本日は、「HR 陽性かつ HER2 陰性乳がんの薬物療法—最近の話題について」ご解説いただきます。最近の話題についてのご講演を拝聴し日々の臨床に役立てたいと思います。



HR陽性HER2陰性進行再発 乳癌治療の展望2023

名古屋大学大学院医学系研究科 乳腺・内分泌外科学

増田 慎三

略 歴

1993年 3 月	大阪大学医学部 卒業
1993年 6 月	大阪大学医学部附属病院 第二外科 研修医
1994年 6 月	大阪通信病院外科
1997年 4 月	大阪大学大学院医学系研究科 臓器制御医学病態制御外科学講座入学
2001年 3 月	大阪大学大学院医学系研究科卒業 医学博士
2001年 4 月	市立堺病院 外科医長
2003年 5 月	国立病院機構大阪医療センター 外科 医師
2013年 4 月	国立病院機構大阪医療センター 外科 医長・乳腺外科 科長
2021年 2 月	(兼) がんセンター診療部遺伝診療センター長
2021年10月～	名古屋大学大学院医学系研究科 病態外科学講座 乳腺・内分泌外科学 教授
2022年 4 月～	(兼) 名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター 臨床研究支援部門長

【所属学会】

日本乳癌学会、日本外科学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、ASCO、ESMO
日本乳癌検診学会、日本臨床外科学会、日本癌学会、など

抄 録

Palbociclib, Abemaciclib に代表される CDK4/6 阻害剤の登場から 5 年経過し、1 次標準治療として浸透した HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌では、その予後改善、特に化学療法移行までの期間の延長を実感できるようになってきた。CDK4/6 阻害剤併用の各臨床研究の結果は、より早い段階での tumor burden（腫瘍量・病勢・がん関連病状など）の抑制と、安定したホルモン高感受性の長期維持が、OS 延長を有意にもたらしことを示唆している。また、ホルモン療法剤の視点から考察すれば、進行再発乳癌における長期のアロマターゼ阻害剤の暴露により、*ESR1* 遺伝子変異のリスクが高まり、バイオロギー変化が懸念されるとの報告もある。つまり、Heterogeneity の低い、より早期ラインにおける適切な治療選択が、非常に重要であり、これは、他の HER2 サブタイプやトリプルネガティブ乳がんとも共通するコンセンサスである。

Real world evidence に関する様々な報告から、CDK4/6 併用治療の効果予測因子も少しずつ明らかになってきた。また病態増悪までの臨床経過を中心に、ctDNA 解析も参考に次治療の選択工夫が検討されている。つまり、post-CDK 治療の最適化が、今、重要な課題と思われる。

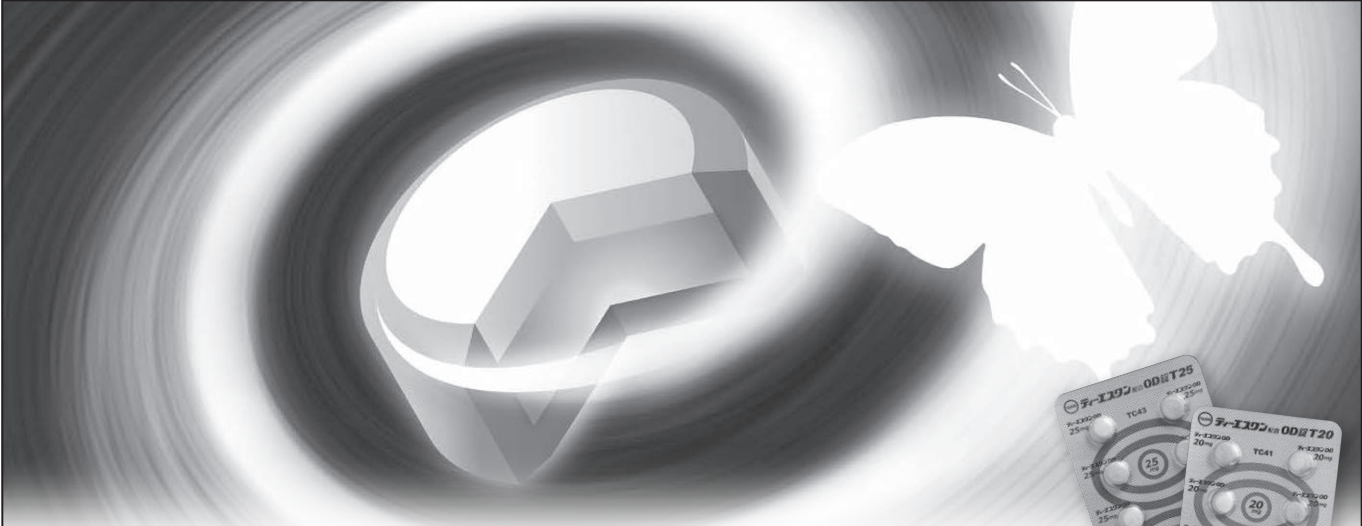
本セミナーでは、大規模国際共同試験や RWE の結果レビューとその解釈を中心に、臨床医の立場から、HR 陽性 HER2 陰性進行再発乳癌の今後の展望を考察したい。

セミナー共催企業一覧（プログラム順）

アストラゼネカ株式会社
中外製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
第一三共株式会社
ファイザー株式会社

広告掲載企業一覧（五十音順）

エーザイ株式会社
MSD株式会社
協和キリン株式会社
大鵬薬品工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本化薬株式会社
ファイザー株式会社



代謝拮抗剤
劇薬、処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

薬価基準収載

ティエスワン® 配合OD錠 T20・T25

TS-1 combination OD tablets

テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合 有核型口腔内崩壊錠



「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については、電子添文をご確認ください。

文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

製造販売元 TAIHO

2022年6月作成



Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



Lilly



抗悪性腫瘍剤 CDK^{注1}4及び6阻害剤

薬価基準収載

ベージニオ錠 50mg
100mg
150mg

注) CDK: Cyclin-Dependent Kinase (サイクリン依存性キナーゼ)
アベマシクリブ錠 劇薬 処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む
注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

製造販売元 文献請求先及び問い合わせ先
日本イーライリリー株式会社

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

0120-360-605 (医療関係者向け)
受付時間: 8:45~17:30 (土・日・祝祭日及び当社休日を除く)

PP-AL-JP-2757
2022年7月作成



抗悪性腫瘍剤／抗VEGF^{注1} ヒト化モノクローナル抗体
ベバシズマブ (遺伝子組換え) [ベバシズマブ後続4] 製剤

薬価基準収載

ベバシズマブ BS点滴静注 100mg「CTNK」

ベバシズマブ BS点滴静注 400mg「CTNK」

Bevacizumab BS for I.V. Infusion 100mg・400mg「CTNK」

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注2}

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること



文献請求先及び問い合わせ先
日本化薬 医薬品情報センター
0120-505-282
日本化薬 医療従事者向け情報サイト
<https://mink.nipponkayaku.co.jp/>

製造販売元
(資料請求先) **日本化薬株式会社**
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

提携先 **セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン株式会社**
東京都中央区新川一丁目16番3号住友不動産茅場町ビル3階

'22.11作成

※効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご参照ください。

INVENTING FOR LIFE

人々の生命を救い
人生を健やかにするために、挑みつづける。

最先端の医薬品の創造。それは長く険しい道のりです。

懸命な研究開発の99%以上は実を結ばない現実。

でも、決してあきらめない。

あなたや、あなたの大切な人の「いのち」のために、

革新的な新薬とワクチンの発見、開発、提供を

私たちは続けていきます。



MSD製薬

INVENTING FOR LIFE



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス[®] カプセル錠
25mg・125mg

IBRANCE[®] 25mg・125mg Capsules/Tablets パルボシクリブカプセル/錠

劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び製品の問い合わせ先:

製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467

販売情報提供活動に関するご意見:

0120-407-947

2021年6月作成
IBN72K002B